

県政刷新へ選沢肢示す

知事選 2021

決戦へ 下

岩井氏陣営

「世代交代」「静岡刷新」。自民党県連の関係者が5月5日、のぼり旗を持ってJR静岡駅前で声を張り上げた。

当時、県議会議長だった山田誠良議長は「次の5年、10年を見据えられる若い人に頑張ってもらわなくてはならない。新しい知事の誕生に支援を」と言葉に力を込めて呼びかけた。自民党が推薦する元参院議員の新人、岩井茂樹氏(52)と4選を目指す現職の川勝平太氏(72)の年齢を意識した演説だった。自民党県連は

「ほっとした気持ち」が3分の1。当選に向けて気合がみなぎっている。持ちが3分の1。まだ越えなくてはいいけないことがたくさんあるという。気がたくさんあるという。持ちが3分の1。党県連幹事長(当時)として



自民党本部や竹下派の反対があっても立候補する意志を貫いた岩井茂樹氏

派閥は「反対」それでも意志貫く

候補者擁立作業を進めてきた中沢公彦県議は4月28日、岩井氏の立候補表明を受けて心境を表現した。

があったことを認め、行政区再編や新型コロナウイルス感染症対策を理由に「今の状態で出馬は難しい」と説明した。

紆余曲折を経て、知事選の構図は固まったが、一時は川勝氏の無投票当選の可能性もささやかれた。対立候補として県内出身の官僚の名前が浮かんで、消えた。出馬がうわさされた鈴木康友・浜松市長は4月12日、市役所で取材に応じ、「知事選に立候補することはありえない」と明言。「ぜひ県政を」と複数の要請



岩井氏陣営の事務所開きで「ガンバリ」を三喝する自民党県連の関係者。いずれも静岡市葵区で

れた。出馬を決める時に、そこが正しいところだった。5月14日に静岡市内で開いた記者会見で政策を発表した岩井氏は党本部、竹下派から立候補を反対されたことをはっきりと認めた。

かつて「鉄の結束」といわれた竹下派の反対があっても意志を貫いた理由を「静岡県のみならずから県選出の参院議員に押し上げてもらった。多くの人から岩井知事誕生に期待する声をもらった。究極の選択だったが、党本部、派閥に反対されても静岡県のために頑張りたいと思った」と岩井氏は言う。「現職の対抗馬を選沢肢として県民に与えられないのはよくないと感じていた」とも述べて、県民に選沢肢を示す強い気持ちを伝えた。

「前々回、前回の知事選は不完全燃焼だった。今回は一丸となって臨める」。県議会最大会派・自民改革会議の県議は、川勝氏の4選阻止に自信をのぞかせる。ベテラン県議も「分裂選挙じゃない。自民党県連が一致団結して戦うのだから、党本部は『頑張れ』と言うのが当たり前だ」と話し、県政刷新に向けて意気込んでいる。

知事選は自営業の石原義裕氏(64)も出馬の意向を示している。

【山田英之、金子昇太】